

領域 9 インフォーマルミーティング議事録

2008.9.21 17:30~19:30

於 岩手大学 XB 会場

参加人数：40 人程度

1 報告事項

1.1 今大会のプログラム編成

1.2 2009 年年次大会(2009/3/27~30)までのスケジュール

1.3 領域代表・領域副代表 交代(2008/10-2009/9)

1.4 物性領域においてシンポジウム、招待・企画講演を提案する上での注意事項について（栃原領域代表より領域プログラム委員会の報告）

・これまでの所属重複規制を明確にし、同一の所属から 2 名以上の講演者を呼ぶことは原則認めないこと、提案者についても講演者と同じ所属は認めないことなどを決めた。

1.5 若手奨励賞の人数の見直しについて（栃原領域代表より領域プログラム委員会の報告）

・受賞者の数を減らした方がよいとの報告（これについて協議事項のその他参照）

以上について当日の資料に基づいて報告がなされた。

2 協議事項

2.1 次々期世話人の推薦・承認

- ・ 結晶成長分科
佐藤 正英 氏 （金沢大学）
- ・ 表面・界面分科
木口 学 氏 （北海道大学）
奥田 太一 氏 （東京大学）

上記 3 名が推薦され、承認された。

2.2 2009 年年次大会におけるシンポジウム・招待講演

シンポジウム

1 件のシンポジウムが提案された。

1. “原子・分子レベルのスピン検出の最前線”

提案者の小野 寛太氏から提案があり、原案どおり承認された。

招待講演

1 件の招待講演が提案された。

1. 深谷 有喜 氏（原研先端基礎研）

提案者の松田 巖 氏（東京大学）から説明があり、原案どおり承認された。

講演のテーマは、「反射光速陽電子回折による表面相転移の研究」である。

2.3 キーワード・合同セッションについて

キーワードおよび合同セッションについて、議論が行われ、合同セッション・機動的合同セッションなどについて、当日の資料に基づき議論が行われた。今後も引き続き議論を重ねていくことが確認された。

- ・ 今回初めて導入した機動的合同セッションについて意見を求めたところ、特に反対意見などは出ず、概ね好評であったと判断した。
- ・ ナノチューブ・ナノワイヤに関する領域 7 との機動的合同セッションの定常化はまだ早急すぎるとの理由で、見送ることになった。
- ・ 領域 10 との「水素」に関する合同セッションは講演者の減少などを踏まえ機動的合同セッションへと移行することになった（既に世話人間で協議し、募集要項の文面は変更済み）。
- ・ 領域 5 との新合同セッション（光電子分光）については、急に合同セッションを増やすことは問題が多いとの理由から次々回以降に延期することになった。
- ・ 現在進行中の領域 3 との合同セッション（表面磁性）の主領域は交互に受け持つことになった。
- ・ 合同セッションに付随する場所の問題（遠いなど）は、プログラム編成の際に世話人ができるだけ考慮することで解決することになった。

3 その他

1. 奨励賞に関する報告について

- ・ 人数を減らすのはもう少し様子を見たほうがよいのではないか。
- ・ 根拠がない状態で減らす必要はない。
- ・ 総数（50名程度）はどのようにして決めたのか。またそれをなぜ変更する必要があるのか。

など反対意見が出された。11月の領域委員会で意見が出される予定。

2. 分冊の問題について

合同シンポジウムで領域9が主領域ではない場合、その講演要旨が領域9の分冊に載らない場合がある（特に領域3との場合）ので何とかしてほしい、と要望があり、学会に意見を出すことになった。